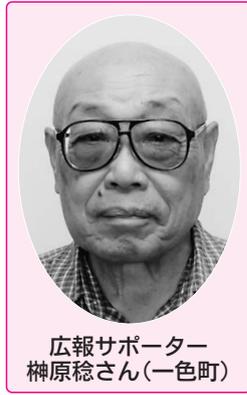


市民記者が行く！ 広報サポーターレポート



三河一色大提灯まつりに 小学生ボランティアガイドが大活躍



広報サポーター
神原稔さん(一色町)

今年も三河一色諏訪神社の大提灯まつりが行われ、8月26日、一色南部小学校と一色中部小学校の6年生の皆さんが行う恒例の



「大提灯のことをお伝え中！！」ののぼりを掲げ、手書きのうちわを配りながら説明していました。神主さんからも激励されていました。



ボランティアガイドを取材しました。

海魔退散を祈る祭事

大提灯まつりのいわれは諏訪神社の南がすぐ海だった今から450年ほど前、夜ごと海魔が人畜作物を荒らし、人々に恐れられていました。村人たちは大篝火をたいて海魔退散を祈った

ところ、被害がなくなったといわれています。後にその大篝火が寛文年間(1661~1672)に提灯で献燈されることになったと伝えられています。

ボランティアガイドの活躍

一色南部小学校の活動として始まったボランティアガイド。現在は一色中部小学校も加わり6年生が総合的な学習の時間を中心に、「郷土史」「諏訪神社の話」「大提灯まつりの由来」などについて、一色歴史ガイドの指導を受けながら学習するようになったそうです。祭日当日は一色南部小学校は午後1時30分から、一色中部小学校は午後2時30分から両校合わせて約110人の児童が参加。この日のために勉強した成果を書き留めた手書きのうちわや資料を用意し、観光参拝のお客さんに手渡ししながらガイドしていました。

最初は緊張や恥ずかしさからなかなか声を掛けられない児童もいましたが、一色歴史ガイドのサポートを受けながら「大提灯まつりのお話を聞いてもらえますか？」と声を掛け、実物の大提灯を見ながら大勢の方に説明していました。



▲神楽舞の巫女さんスタイルのガイドは大人気でした。

ガイドを利用した方は「初めて見たけど、説明のおかげでよく分かったよ」「資料をありがとう」など、皆さん笑顔で児童に対して感謝の気持ちを見せていました。また、学校に敬礼の手紙も届いたそうです。

私は毎年6年生の児童が学習し、伝えることにより、大提灯まつりや地域の歴史に興味を持つ方が増え、地域全体で伝統や文化などを継承をしていけるようになればいいと思います。

今後この活動が代々受け継がれることを願います。

広報サポーターは公募により選ばれた市民記者です。これから市民の目線で市内各地のイベントなどを取材していただきます。